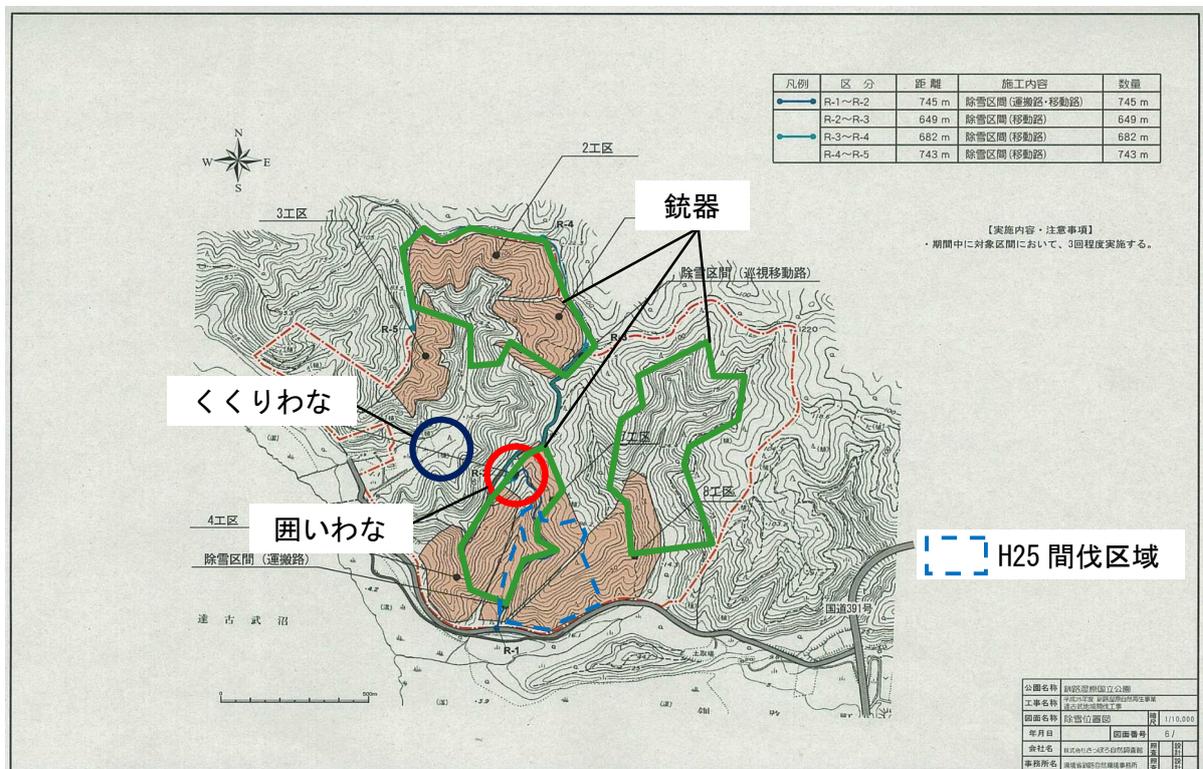


平成 25 年度達古武地域エゾシカ試験捕獲 実施結果

釧路湿原周辺地域におけるエゾシカ捕獲の手法検討を行うため、達古武湖北岸の環境省所管地で、①囲いわな、②くくりわな、③銃器によるエゾシカ試験捕獲を実施した。



試験捕獲位置図

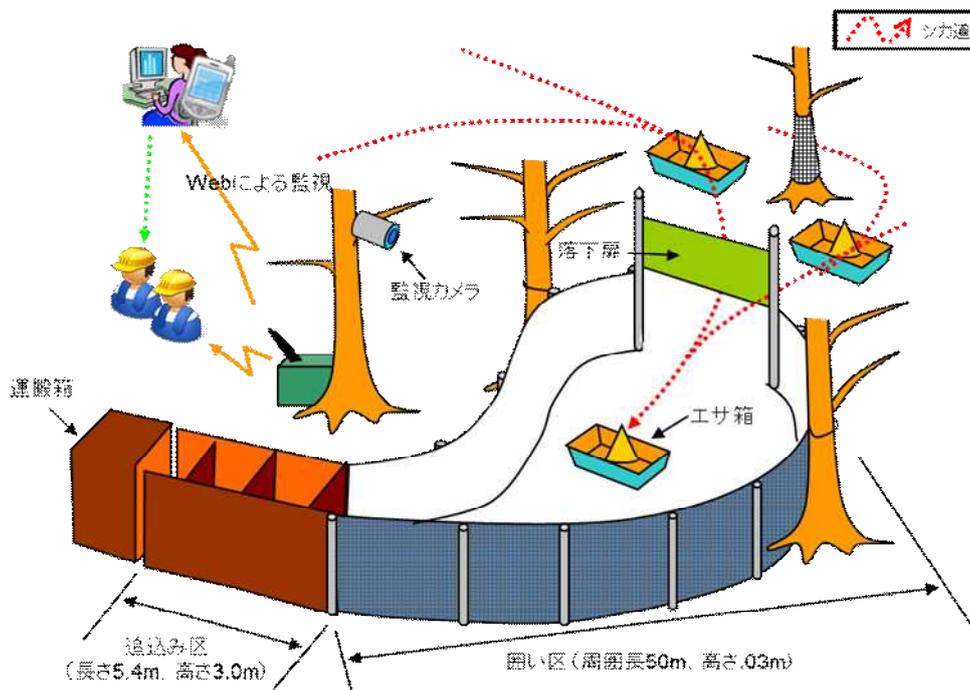
●試験捕獲実施箇所の諸元

- ・ 釧路湿原国立公園第2種特別地域
- ・ 国指定釧路湿原鳥獣保護区
- ・ 自然再生事業（カラマツ人工林を広葉樹主体の自然林に再生する取組）が行われている、環境省所管地
- ・ 平成24～26年度の冬期にカラマツの間伐が実施される。平成24年度には間伐により生じた枝条や間伐材の樹皮をエゾシカが採食しており、周辺地域に生息するエゾシカが集まる可能性がある。
- ・ スノーシューや釣り、SL撮影等の利用者が多い場所である。

① 囲いわなによる試験捕獲

○特徴

- ・ 利用者が多い場所でも安全である。
- ・ 生体捕獲によりエゾシカの有効活用が可能。
- ・ 設置や捕獲個体の搬出には冬でも通行できる道路が必要。
→間伐のために道路は除雪されていた。



○スケジュール

餌付け誘因 12月下旬～ 圧片大麦及びビートパルプペレットを使用
囲いわな設置 1/15～16
捕獲 1/29～3/26

わな稼働中は月曜～金曜に餌付け作業や自動撮影装置の確認等を行い、極力たくさんシカが捕獲できるタイミングでの捕獲を試みた。

○捕獲結果

日付	頭数	備考
1月29日	14	
2月12日	2	1個体にGPS首輪を装着し、別の1個体はリリースした。
2月14日	4	1個体にGPS首輪を装着した。
2月26日	2	
3月4日	8	
3月20日	8	
3月24日	6	
3月26日	5	
合計	49	♀成獣23頭、0歳26頭

- ・1本角以上のオスは1頭も捕獲されなかった。
- ・昼間はほとんどシカが現れなかったため、夕方または夜明け前に捕獲し、午前中に搬出することを基本とした。
→夕方捕獲を行った場合は、わな内でシカが暴れること等により周囲のシカの警戒心を高める可能性があると考え、中盤は夜明け前捕獲とした。
- ・捕獲されたシカは放獣した3頭を除き全て生体で有効活用施設に搬出された。

② くくりわなによる試験捕獲

○特徴

- ・わな設置場所の自由度が高い
- ・条件に応じて移設することが可能
- ・混獲のおそれがある
→3/23にはわな周辺でタンチョウの足跡が確認されたため、捕獲を終了した。

○実施方法

- ・渡部式くくりわな 10 基を 2/4～3/27 の期間設置。
- ・月～金曜に 1 日 1 回見回り。土日は稼働なし。
- ・付近に利用者等への注意看板を設置。
- ・公園利用者等への配慮のため、銃器を用いない方法によりとめさしを行った。



○捕獲結果

日付	性別等
2月13日	オス・仔
2月21日	メス・仔
2月27日	メス・成獣
3月4日	メス・成獣
3月5日	メス・成獣
3月7日	メス・成獣
3月18日	メス・仔

③ 銃器による試験捕獲

○特徴

- ・機動性が高く、短時間でも実施可能。
- ・利用者への安全対策が必要。
- ・場所や期間など、希少種等への配慮が必要。

○実施方法

- ・事前に住民への説明と注意看板を設置。
- ・3/24 及び 3/25 に実施。夜明けから作業を開始した。
- ・林道入口 2 カ所に監視員を配置。
- ・射手 2 名及び他スタッフ 2 名により忍び猟式シャープシューティングを実施。

○捕獲結果

- ・3/25 に♀成獣 2 頭、♀0 歳 1 頭の計 3 頭を捕獲。

●本業務で実施した捕獲手法の利点と課題

捕獲手法	利 点	課 題	改善点
囲いワナ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 捕獲数がある程度得られた。 ・ 全てが食肉加工として利用された。 ・ 餌付いてしまえば、メンテナンスの労力は低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 施設が大規模なので、湿原内には作りにくい。 ・ 雪融け時期には林道の舗装が緩み、トラックの走行が困難になった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 湿原内において設置するには大型囲いワナは不向き。小型で持ち運びの可能なワナを利用する必要がある。
くくりワナ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 機動性が高い。 ・ その日の天候や気温によってワナを移設等可能。 ・ 個数が少なければ、1名で設置、見回り可能。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 捕獲したシカの搬出距離が遠い。 ・ 公園利用者への配慮が必要。 ・ 総合的に搬出の手法の改善。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ シカの搬出にはウインチ等を有効に活用し、距離が遠くても牽引できるように工夫する。
銃器を用いた捕獲 (忍び猟式SS)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 機動性が高い。 ・ シカの行動や地理的な情報が整備されており、技術を持ったメンバーが集まれば短期間でも実施可能。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>公園利用者への配慮。</u> ・ 事前の各機関への連絡。 ・ 事前の打合せとチームプレーができる体制必要。 ・ <u>シカの警戒心を抑制する配慮。</u> ・ 捕獲したシカの搬出労力の軽減。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 射手2名による忍び猟式SSは、達古武のような地域である程応用できる。

●その他

- ・ 今冬は積雪が少なかったためか、間伐枝条や間伐材の樹皮の採食はほとんど見られなかった。
- ・ 本事業地では、囲いわなを中心とした捕獲が効果的であると考えられた。
- ・ 公園利用者は朝7時台から来訪しており、銃器を使用する場合には十分な配慮が必要である考えられる。
- ・ 囲いわなにより効率的に捕獲できる条件であれば、警戒心を高める可能性のある銃器による捕獲は行わない方がよいかもしれない。